

都道府県別賞一等

祖母を白血病から救ってくれた生命保険

愛知県 滝中学校 一学年

卯田 彩乃

東京オリンピックが行われた昨年の夏、私は受験勉強をしながら水泳競技を観ていた。日本代表の池江璃花子選手がレースに出場した時、隣で祖母が、「よくここまで復活した。感動だね。」と、涙を流しながらテレビの前で応援していた姿を思い出す。

実は私が生まれて十カ月の時、祖母は急性骨髄性白血病を発症したそうだった。その時の記憶は赤ちゃんだったから全くないが、抗ガン剤投与に放射線治療と、治療を終えるまで約一年かかったと母から聞いた。私が一歳になった時のお祝いの会の写真に祖母が写っていないことが物語っている。それから祖母は元気だったが、五年後の私が小学生になる直前、再発してしまう。祖父が毎日病院にいる祖母の元へ行き、母は祖母の代わりに家事をすることになり、家族がみんな忙しくしていて、いつも側にいてくれた祖母に私は、たまに病院に会いに行くことしかできなくなり、すごく寂しかったことを覚えている。子供ながらにしばらくしたらまた祖母は元気になるだろうと思っていたが、

「大丈夫だよ。助かるよね。」

と、母と祖父がひそひそ話をしているのを聞いてしまった時、その場で固まった私があった。それから、祖母の壮絶な、二度目の闘病生活が始まったのだった。祖母は、辛い入院を何度も繰り返しながら、無事に完治することができた。テレビで観ていた池江選手が、きつと昔の自分に重なったのだろう。私はこの時ふと、祖母の二回もの治療費はどうしたんだろうと気になった。祖父に聞いてみると、祖母は私が生まれる前にガン保険に加入しており、そのおかげで、高額な治療費は全て、生命保険で支払うことができたそうだった。しかも保険料払込免除特約を付けており、最初に発症してから保険料の支払いが免除になった。もし、治療費を支払うことができていなかったら、祖母は今頃どうなっていたのだろうかと怖くなる。実際、祖母が治療を受ける際、治療費が支払えず全ての治療を受けられない人が半分、辛い治療に耐えられずに治療を途中でやめてしまう人が四分の一だと言われたそうだった。再発から六年経ち、私が中学一年生になった今でも祖母は元気に過ごしている。まさしく生命保険に助けられていると思う。

人は明日何が起こるか分からない。池江選手や私の祖母のように、突然病気になるかもしれない。でも、できる限りの治療を受けられれば、生きることが

第60回中学生作文コンクール

できるはずだ。

私は社会人になったら、きちんと生命保険に加入しようと考えている。自分の大切な家族を守るため、そして安心させるため、ただ生命保険の仕組みは漠然としかまだ分かっていない。祖母を救ってくれた生命保険について、私自身、しっかり勉強したいと思う。